

《入選》

まわりに目を向けて

城東小学校 六年

田辺 嘉音 さん

「車内対応終わりました。」私は電車に乗っている時にします。なんだろうと思つてまわりを見ると、車イスに乗っている人がいました。また、他にも目の不自由な人が白杖を使って辺りに物がなにか確認をしていました。私はよく大人の方に、「あつ。こごとつぞ。」

「おとなりごとつぞ。」とか

「こごとつぞ。」

とかをいってゆずることができませんでした。この時に、私はゆずった方もうれしい気持ちになれるんだと分かり、心が軽くなりました。私は今まで、スロープのあるところや点字ブロックの上を歩いたり、はしったりすることがありました。ですが、この電車の中の経験をくり返り、もつと体のどこかが不自由であつたりする人たちのことについて知り、体のどこかが不自由である人たちにとつては、とてもこわく危険であることが分かりました。

一人一人が幸せであつたり、気持ちを分け合うためには、まわりにしっかりと目を向けたら、マークを見つけたりするものが大切だと思いません。みんながいっせいにそうすることができなくても、一

人一人が心がけて少しずつ少しずつまわりを変えていけたらいいなと思います。

私は、これから、まわりを見るだけでなく自分が考えたいことはすべて行動にうつすことを心がけていきたいです。体の不自由な人もそうですが、けがをしたりしている人や重い荷物を持つている人たちにも声をかけていきたいと思えました。しかし私はいつもそういってなかなか行動にうつすことができないので毎日の学校生活から少しずつ広めていきたいと思えました。例えば、友達が重い荷物をかかえていたり、そうじで一人でゴミを集めている子がいたりしたら

「大じょうぶ?」

「手伝うよ。」

といって、助けて、おたがいに思いやり、気持ちを分け合つていきたいと思えます。す

べては一人一人の心がけも大切だけれど自分から行動し、広めていって笑顔を増やしていきたいと思えます。